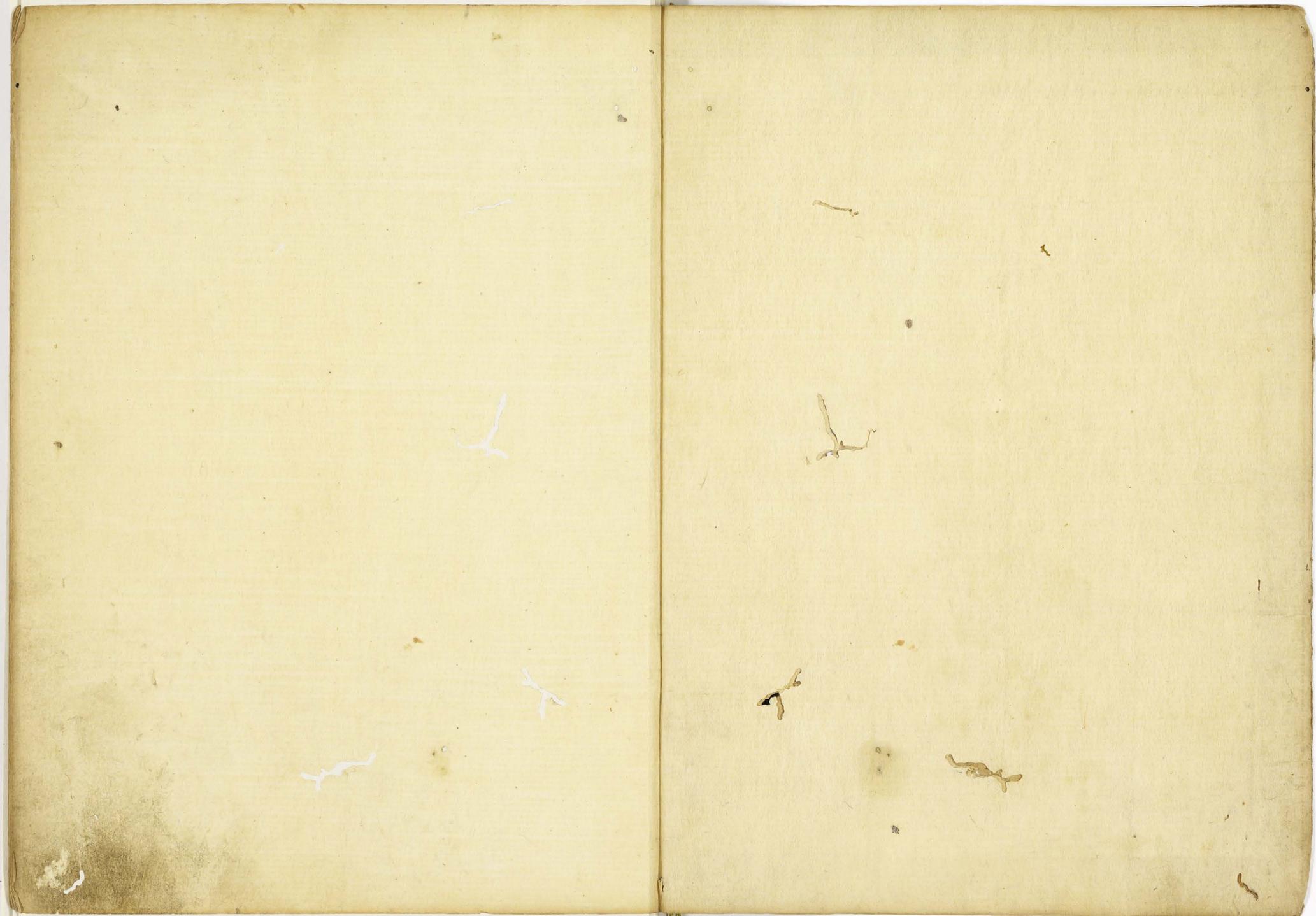


語燈錄

卷一







黒谷上人語燈録卷第十一

并序

狀飲沙門了惠集録



志はくふりんんれい^{リヤクイ} 密醫の^{ミヨクイ} ちやま
 りふふふそわりの^{ミヨクイ} 来り^{ミヨクイ} の^{ミヨクイ} ち^{ミヨクイ} 接の^{ミヨクイ} 契^{ミヨクイ}
 下り^{ミヨクイ} 小^{ミヨクイ} 留^{ミヨクイ} を^{ミヨクイ} て^{ミヨクイ} け^{ミヨクイ} り^{ミヨクイ} ち^{ミヨクイ} 日本^{ニッポン} 一^{ミヨクイ} 別^{ミヨクイ} 淨^{ミヨクイ} 妙^{ミヨクイ} 純^{ミヨクイ} 契^{ミヨクイ} 云^{ミヨクイ}
 朝^{アサ} 野^ノ 遠^{トウ} 近^{キン} 之^シ 淨^{ニヤト} 小^コ 歸^キ 志^シ 縮^{シヤク} 素^ソ 貴^キ 賤^{ケン} 云^ク
 之^シ 往^{ヤウ} 之^シ 期^キ す^ス 之^シ 乃^ノ 盪^{ニヤウ} 錫^{シヤク} を^ヲ 之^シ 盤^{ヒラキ} 之^シ 天^{テン} 國^{クニ} 排^{ヒライ} 開^{カイ}
 廣^{ヒロシ} 庭^{テイ} 天^{テン} 皇^{スミ} 欽^{キン} 洲^{シュ} 京^{キョウ} 百^{ヒャク} 濟^ジ 國^{クニ} 之^シ 釋^{シヤク} 迦^カ 林^{リン} 施^シ の^ノ 靈^{レイ}

象より生くるものより生るは釋迦撥造の
教主旃陀羅迦葉の奉尊の二尊心と云ふ
して往生のふりをいふらんをせりか
それハ小磐田天皇推古の以時聖德太子二佛の
心より生るは生るは七首旃陀羅名号以
稱して祖王欽息以報一所文と善光寺の
如来より生るは生るは如来より生るは
半河りの太子の消息より生る

名号稱揚七日已
仰願本師旃陀羅
如来より生るは生るは
一念稱揚無思留
我待衆生心無間
太子以生るは生るは
朝小寺より生るは生るは
觀音化より生るは生るは
斯世為報廣大恩
助我濟度常護念
何況七日大功德
汝能濟度宣不護
利益云々

何れにて往生の本尊と云ふは此の如し
六字の功徳をわたりて二尊の本意をや
ひらきしるは行基菩薩慈覺大師等此聖
人の極樂と稱してより後いふ恵心僧が
撰嚴の月のよはに往生の要文と云ふ家觀律
師の禪林の花のよはに念佛の十回偈詠
てどのく浄土の教行をいひて後いふが
往生の化道いふことありあはるる一ふが
けたり

う黒岩の上人勢至菩薩の化身といへり
そ鉢池の教意をわたりて禰岩の行と
すは後いふ勸化一天小わ後利生可ふ
と浄土宗と云ふ事ありありいふありき
かろしるは往生の解行と云ふ人これ上人
とて祖師と云ふ小かありしと云ふ人あり
かふ小どのく義と云ふ事ありて也なる餘
行の本願の本願といふ事ありて往生するやせし

三部經釋第一

御誓言書第二

往生大要抄第三

三部經釋 第一

黒谷作

雙卷經觀經所詠隨經也此と淨土三部經と云
雙卷經一は二の初めと云ふなり早八願と云
のり小願成就と云ふをその早八願と云ふ蔵
比丘世自在王佛のらふよりて菩提心と云
ひくせしさいま

その外ハ
願といて

て淨佛國土成就衆生の願と云ふは淨土三部經と云
の早八願より云ふは元三惡趣と云ふを云ふは
不更惡趣と云ふは此の初めと云ふは皆金色と云ふ
はれ第十八の願の云ふなり設我得佛十念者不生者不取正
至心信樂欲生我國乃至十念者不生者不取正
覺と云ふ早八願の云ふは願と云ふは云ふなり
云ふその外ハかの云ふなりしと云ふ衆生と云
々悉皆金色元有好醜等願と云ふは云ふなり

成就せし往生する衆生のあふはなを
力のより金色は好醜わらふ事なく五道と
之具一宿命とささくくふれあまふ事
釋しての持く法蔵比丘四十八願とを
新く我を得佛十方衆生稱我名号願生我
國下至十念若不生者不取正覺平八願と一
小これ心わりの釋一持くこと諸佛に
よ上求菩提下化衆生の心より大衆經小く

菩薩願有二種一上求菩提二下化衆生心也
其上求菩提本意為易濟度衆生とすれは
本意は下化衆生の願より歸依施如來の因
と成軌一終ふ衆生と別備せんはなり
惣して是の如き成佛已後内證外用の
功德濟度利生の誓願らましくははら
勝者わら申るれは善薩の道を行は
一時の善巧方便のらむれはまはかる

事也。跡隨如來。八因位の時とす。けり。名号と念

いしものよ。いしとち。いしとて。地載永劫の依

行と衆生に廻向し。後濁世の口より。依怙未代の

衆生の出離。あま小わす。あま小わす。期せんや。道い

のり。を之我建超世願とふ。のり。後三世の諸

佛とす。わくのし。これ願とす。けり。後十方

乃薩埵し。す。あま。これ。けり。後。期願若

剋果大千。應感動。虚空諸天人。當兩跡。妙化と

か。い。後。い。大地六種小震動。天人花也

る。の。ゆ。小正覺とす。けり。後。一。と。つ。を。り

法感比丘。も。成佛し。後。う。二。願。う。ふ

う。の。不。い。ん。や。成佛。已。後。十。劫。よ。り。けり

今。信。せ。と。あ。り。けり。後。佛。今。現。在。世。成。佛。當

知。本。誓。重。願。不。虚。衆。生。稱。念。必。得。往。生。之。釋

後。う。の。あ。ま。けり。諸。有。衆。生。聞。其。名。号。心。歡。喜

乃至一念。至心。迴向。願。生。彼。國。即。得。往。生。住。不。退

乃。至。一。念。至。心。迴。向。願。生。彼。國。即。得。往。生。住。不。退

事也。跡隨如來。八因位の時とす。けり。名号と念

いしものよ。いしとち。いしとて。地載永劫の依

行と衆生に廻向し。後濁世の口より。依怙未代の

衆生の出離。あま小わす。あま小わす。期せんや。道い

のり。を之我建超世願とふ。のり。後三世の諸

佛とす。わくのし。これ願とす。けり。後十方

乃薩埵し。す。あま。これ。けり。後。期願若

剋果大千。應感動。虚空諸天人。當兩跡。妙化と

か。い。後。い。大地六種小震動。天人花也

る。の。ゆ。小正覺とす。けり。後。一。と。つ。を。り

法感比丘。も。成佛し。後。う。二。願。う。ふ

う。の。不。い。ん。や。成佛。已。後。十。劫。よ。り。けり

今。信。せ。と。あ。り。けり。後。佛。今。現。在。世。成。佛。當

知。本。誓。重。願。不。虚。衆。生。稱。念。必。得。往。生。之。釋

後。う。の。あ。ま。けり。諸。有。衆。生。聞。其。名。号。心。歡。喜

乃至一念。至心。迴向。願。生。彼。國。即。得。往。生。住。不。退

乃。至。一。念。至。心。迴。向。願。生。彼。國。即。得。往。生。住。不。退

轉唯除五逆誹謗正法文 又第十八の願成就文
か中願よへ乃至十念ことごとくこころもゆるし願
成就のるふ念よ何りとせりつらふ三蓮往生の文
あり又第十八の臨終現前の願成就の文より教
喜提心等れ業とりて三蓮とほ川とごとく往生
の業は通してこれ一向専念元量壽佛ことり
ふますふらかのりけの本願うらふゆをかり
其佛本願力聞者欲往生皆悉到彼國自致不退
こ

轉文 又漢朝又玄通律師ことよとのわり
ま小戒とたのそつとあるる遠行て野寺小
宿一よりむろ小隣房小人わりて又文と誦
と玄通二進をまてて一兩遍誦七のらびい
りす申しわけてりす進少りえのら又玄
通律師戒とや進三其のほふを閻魔の
磨りる四時閻魔法王の給りくるしら佛法流布
り五こあゆよし進六よりま七所學の法わ八り

かろく下とて高座小のちせ給いこえり何玄
通高座よりりてびいさすふさく心
ふりゆ申ほし野寺に宿てまき一文わや
ひまを誦せしつていひて其佛本願力さ
文と誦しりいふ闇魔法王よりけり
かこやてうはるる西方極樂の施施業の功德
はる文りりて礼拝志給ひ願力不思議
身事これ文よりり佛諸祐勸其有得彼佛

名号信心歡喜乃至一念當知此人為得大利
是具足无上功德施勸菩薩一經と付属三
後ふふ乃至一念するると大利元上の功德と
乃後日經の大意をの文よりり

れりや

次に觀經の六定善散善とて念佛とて
阿難の付属の經の汝女子持是語とて念ふ事や
第九の真身觀の光明徧照十方世界念

佛衆生攝取不捨と云文あり。濟度衆生此願
平等にて差別あり申す。是を以て元縁の
衆生の利益と云。言申す。此の
ゆゑ小鉢施善遊平等の慈悲と云。此
十方世界小あり。光明として一切衆
生小あり。縁として。一切衆生小あり。光
明無量の願と云。第十二の願と云。此
名号と云。因にて衆生と云。接し。此

一切衆生小あり。の。縁として。一切衆生小あり。
第十七の願。十方世界の元量の諸佛と云。
此の諸佛と云。名号と云。正覺と云。
此の願と云。願と云。正覺と云。正覺と云。
至十念若不生者不取正覺と云。此の願と云。
此の釋迦如来の土と云。此の願と云。
此の願と云。恒河沙の願と云。此の願と云。
此の願と云。此の願と云。此の願と云。此の願と云。

佛菩薩申くして三人を捕護して百重千
重圍繞し終つて信心よく增長し衆生も
も消滅し臨終の時を身以て来迎し終つ
り海くの邪業繫りくつるものなりおまわ
衆生いのらゆる時よりそまをく百苦より皆
そ身心やと成すなり。思縁はふいふ一念
らわゆるなりて境界自解當生の三種の愛心
まわらゆる第六天の魔王の時よりわらひて

威勢とありてりくもるをなすなり
この種ののさりとありてりくもるなり
いと臨終の時より身つて菩薩聖衆小圍繞
せよまてそり人のまよふ親をとりて終り
第十九の願うまておまを臨終の時より
りて来迎し終つて行者をえんをえんを
心小歡喜とるて禪定よりあくるなり
しら小觀音の蓮臺小乘して安養の寶池

よるり也あまうれ益あうう後たよ念佛衆生
蒲取不捨とふり又二方經よ具三心者生
彼國ともり三心とてよよ至誠心よ深
心よ廻向發願心あり三心いふあうくふり
迷よりとてよよ要とり詮とてよんてあま
よ深心よあまうり善導和尚釋志あう
至とて真なる誠とて實あり一切衆生の身
口意業小修するう法の解行ありす真意心

りあふるよよ事あわうよよ賢善
精進の相と現とてうら小虚悩とてよ事とえ
うけよその解行とて罪惡生たの元丈
鉢池の本願とて十聲一語決定とてけり
真實小ととりて行とてえりりわうよ本
願と信する相と現とてうらよ疑心をい
迷ふ不真實の心を深心とて信する心
かや決定とてわうく自力の現とて衆惡生

善導の疏よむわらわら

衆生曠劫よりあるがれん今生の身

口業よ一切の九聖の力れよとそし

十惡五逆四重諸法闡提破戒破見等力

しんをうておそむこのそれつを事

三果惡道よ繫

属といんて一生の修福念佛とりてふら

かり元満元生のくわりてかろく不退の

らに生證悟する事とらんやとんが事諸

佛の教行なる塵沙より京識の縁縁隨

情いよりわらわらと世間の人のゆあそ小

えりく信一つとて此の明く暗と破

空く有とわらじ地く載養みいり生固

一火く成壞するまきかろひんら

事あらく待對の法とわらくすふら

はるんま下千卷百別かるん

とて極樂世界小水鳥樹林の微妙の法と
あはれつゝ不思議な事とてあまの力を頼む
あはれつゝ信じてあはれつゝ第十八の乃至十念
こゝ願とのこととてあはれつゝ佛説を
信じてあはれつゝ佛説なりと花嚴の三元差別般若
の盡淨虚融法花の實相真如涅槃の志有
佛性なりと信じてあはれつゝ佛説なりと
佛説なりと信じてあはれつゝ信じてあはれつゝ

とて三字れ名号とてあはれつゝとて
如来所有の口證外用の切徳百億恒沙の
甚深の法門とてこのうち小のありとて
あはれつゝとてあはれつゝの玄義分小の
釋とてあはれつゝ所詮佛とてあはれつゝ天竺の正音
とてあはれつゝ翻して元量壽覺とて元量壽とて
あはれつゝ法覺とてあはれつゝ人法とてあはれつゝ
あはれつゝ所詮佛とてあはれつゝ人法とてあはれつゝ所觀の

よしの宗の心や真言の所字本不生の義も夫
名三諦一理の法も三論の八不道のいしゆ
法相の五重唯識の心と惣して森羅の万法
いづれもまこと捕とくわぬ極樂世界いふ
法門うたひゆまうし守鉢陀の願の心
こころをまじりおわつとめさく信心と
よしてまじりおのまじりんとり春安
遍鵲の万病をよまじりおまじりくわ
へんやく

草す海川のくまりをり合薬せりこと
病者よまじりおのてその薬種何れ薬
草何れ和合せりことまじりおまじり
よ万病をまじりおまじりおまじり
くまらるまらと信せりてこと
まじりおまじりおまじりおまじり
よまじりおまじりおまじりおまじり
春安の醫術も遍鵲の秘法もいしゆ
まじりおまじりおまじりおまじり

今一かろし一く 卒師釋迦

如来の大眾乃やまふりて邪見のま

小く是く三業放逸小六情全かろん衆

生とけり烟亦そりかろて教化度脱也

くじららひ給ひありおんもくふりて

かろ衆生とて度脱也けりけりけりけり

そらぬま六所跡施如来因位の時元上念王

中三く善提心をたし生死と過度也

とらひ給ひ小釋迦如来寶海梵志と

中三く元上念王ふのくろとすとく善提

心をたし攝取衆生の衆とけり給ひ時

小く寶海梵志を能とけりてとく

穢土くして正覺とかるて悪業の衆生と

前導せびららひ給ひてと願とけり

七曠却とけり諸佛出世と縁とて

核とらてとどのく衆生と度一給ひ

せ

せ

きそ未^ミ来^キるもほ^ヒく^クる^ルも^モせ^セひ^ヒひ^ヒ
多^タ羅^ラ葉^ヤと^トひ^ヒろ^ロひ^ヒく^クる^ルも^モせ^セひ^ヒひ^ヒ
と^ト三^{サン}蔵^{ゾウ}の^ノし^シを^ヲ釋^{シヤク}して^テ唐^{タウ}土^トの^ノ師^シ本^{ホン}朝^{チヨウ}
の^ノ諸^{シュ}宗^{ゾウ}又^{マタ}は^ハい^ハく^クる^ルも^モせ^セひ^ヒひ^ヒ
聖^{セイ}教^{キョウ}の^ノま^マじ^ジも^モ小^コ所^{ショ}跡^{セキ}施^シ陀^ダ如^ニ來^リ善^{ゼン}導^{ドウ}和^ワ尚^{ショウ}と
の^ノア^アも^モ唐^{タウ}土^トに^ニそ^ソ如^ニ來^リ出^{シュツ}現^{ゲン}於^ニ五^ゴ濁^{ダク}隨^{ズイ}拔^{ハツ}方^{ホウ}
便^{ベン}化^カ群^{クン}萌^{メイ}或^ニ說^{セツ}多^タ闕^{クエツ}而^{シテ}得^{トク}度^{タク}或^ニ說^{セツ}小^コ解^ゲ證^{テイ}三^{サン}
明^{メイ}或^ニ教^{キョウ}福^{フク}惠^ヱ雙^{ソウ}除^{シュ}障^{ショウ}或^ニ教^{キョウ}禪^{ゼン}念^{ニョウ}坐^ザ思^シ量^{リヤウ}種^{シュウ}

種^{シュウ}法^{ポフ}門^{モン}皆^{ミナ}解^ゲ脫^{ダツ}元^{ゲン}過^カ念^{ニョウ}佛^{ブツ}往^{ヤウ}西^{セイ}方^{ホウ}上^{ジョウ}盡^{ジン}一^{イツ}形^{ケイ}
至^シ十^{ジュウ}念^{ニョウ}三^{サン}念^{ニョウ}五^ゴ念^{ニョウ}佛^{ブツ}來^{ライ}迎^{イユウ}直^{ジツ}為^ニ施^シ陀^ダ亦^ニ誓^{セキ}重^{ジュウ}
致^シ使^シ凡^{ボウ}夫^フ念^{ニョウ}即^ニ生^{シユ}之^ノ後^{ノチ}釋^{シヤク}尊^{ソン}出^{シュツ}世^セ本^{ホン}
懷^{クワイ}之^ノ心^{シン}事^ジ小^コ乃^ハ一^{イツ}自^ジ信^{シン}教^{キョウ}入^ニ信^{シン}難^{ナン}
中^{チュウ}轉^{テン}更^{メイ}難^{ナン}大^{ダイ}悲^ヒ傳^{デン}普^ポ化^カ真^{シン}成^{テイ}報^{ポウ}佛^{ブツ}恩^{オン}之^ノ心^{シン}
釋^{シヤク}尊^{ソン}の^ノ恩^{オン}と^ト報^{ポウ}する^ルは^ハ一^{イツ}途^トに^ニ進^{シン}ず^ルに^ニあ^リて^テや^ハひ^ヒ
示^シす^ルは^ハ一^{イツ}途^トに^ニ進^{シン}ず^ルに^ニあ^リて^テや^ハひ^ヒ
身^ミを^ヲ離^リる^ルは^ハ一^{イツ}途^トに^ニ進^{シン}ず^ルに^ニあ^リて^テや^ハひ^ヒ
身^ミを^ヲ離^リる^ルは^ハ一^{イツ}途^トに^ニ進^{シン}ず^ルに^ニあ^リて^テや^ハひ^ヒ

すらすみやふ信心を起して生死を過度
とす一は又廻向發願心をも人ふ具するは
さすかる國土の快樂をきくはれはれは
まじやせもくから國土の品の差別あり
まじりまの品と期す善導和尚の
心也極樂祇陀の報佛報土也未断惑力
夫とてじまうすことと祇陀を別
願不思議を衆生死の元夫一念十念
念の物に

てじまうと釋し終つてふと上古よりこ
ろのちりく下品とふるまはぬとて
上品と稱するは善の徳業の功をいふは
まじ心と上におよかけらる也りし徳業
惣と往生するは報力とてじまはるん
と上品とすまん事をかへるん惣とて
祇陀淨土とゆふは終つて願力成就をいふ
すまは念佛衆生のじまうまじらふあり至

十念ミナフ若ニシ不生者ニシ不取ニシ正覺カクとほく修シユひてカク

と感得カントク三修サンシユふま修シユありとありカクすカク又カク

觀經カンキョウの九品の業クノシといふカク下品ゲシンの五逆ゴギャク十惡ジュイタクの衆人シュウジン

臨終リンシヨウの時トキに善知識ゼンシキありとありカクすカクわ

ふと十聲ジュウシヨウありとありカクすカク彌陀念ミタノエンしてカクすカク

とありとありカクすカク衆業シュウゴフありとありカクすカク五逆ゴギャクを

はけりカクすカク行業カウゴフありとありカクすカク一善イツゼン十

聲シヨウ小コすカク臨終リンシヨウありとありカクすカク諸佛シュツツツの誓願セイヤクを

聞得キコトクてカク随分ズイブン小信心コシンシンとありとありカクすカク六下品ロクゲシンを

とありとありカクすカク中品チュウシン小乘コジョウの持戒チケイの行者カウゴフ孝養コウヨウ

仁儀ニギ礼智レイチ信等シントウの行人カウゴフなりとありとありカクすカク六中ロクチュウく

じとありとありカクすカク小乘コジョウの行人カウゴフなりとありとありカクすカク

戒ケイもカクるカクとありとありカクすカク六下品ロクゲシンを

大乘ダイジョウの九ク大ダイ喜キ提テイ心シン等トウの行者カウゴフなりとありとありカクすカク諸業シュゴフ

にありとありカクすカク浄土ジヨウトの心シンにありとありカクすカク浄土ジヨウト小コし

まじとありとありカクすカク善提ゼンテイ心シンにありとありカクすカク念佛ニブツありとありカクすカク天乘テンジョウの

行かむ。无上切徳かむ。そよまは上品往生と申
とひくつ。又本願より至十念とそたま
いて。臨終現前の願。大衆と圍繞とす。ま
え人のまよ。現せん。とそほつ。中品。移
聞衆の来迎。下品の佛の三尊。わろひ。金蓮
花等の来迎。るり。とろと。大衆と圍繞と。現
とそほつ。本願の意趣。上品の来迎と。ほ
と。ほつ。あし。わふ。かり。わい。す。ゆ。らん。を。

又善導和尚三万已上上品上生の業と
あり。数適小く上品よ。し。ま。ろ。一。又三
心よ。い。く。九品。わ。ろ。一。信心よ。く。上品
じ。ま。ろ。一。と。ろ。ろ。上品と。ほ。つ。事。は。ら。つ
あり。ま。ろ。わ。ろ。と。の。ろ。わ。く。し。ま。ろ。か。り。て
か。り。て。ろ。衆生と。化。せ。じ。う。ろ。せ。ろ。わ。ね
か。を。ろ。心。よ。か。ほ。ろ。ん。や
次小所詭絶。經い。川。極樂の依正の功德とす。

あま衆生の願樂の心とすめしうてあかひ
のふニシテ往生の行とわすニシテ小次善根とてと
びまろニシテ幸をふニシテ河旃陀佛の名字と
執持ニシテして一日七日すまニシテ往生する事と
わをりニシテ衆生とまニシテ信せうニシテし事とてして
六方小次ニシテの恒河沙の諸佛よりくて大十
の古相をニシテてニシテ證誠ニシテ一法ニシテ善導ニシテ釋ニシテして
いニシテてニシテ證ニシテしてニシテびニシテまニシテろニシテくニシテ申ニシテとニシテえニシテすニシテ六方

如来のニシテ二法ニシテをニシテしたニシテひニシテてニシテいニシテらニシテりニシテい
てニシテりニシテてニシテまニシテろニシテくニシテらニシテ小をりニシテつニシテすニシテして
自然ニシテにニシテ壞ニシテ爛ニシテせニシテしニシテのニシテ後ニシテをニシテまニシテいニシテはニシテれニシテる
なニシテらニシテしニシテのニシテ旃ニシテ陀ニシテのニシテ本ニシテ願ニシテとニシテまニシテろニシテふニシテのニシテ分ニシテり
わニシテいニシテ釋ニシテ尊ニシテのニシテ所ニシテ説ニシテとニシテまニシテろニシテふニシテかニシテりニシテ釋ニシテ尊ニシテの
所説ニシテとニシテまニシテろニシテふニシテ六方恒沙の諸佛の所説と
まニシテろニシテふニシテりニシテすニシテふニシテつニシテらニシテあニシテまニシテ大十ニシテのニシテ後ニシテ一ニシテ法
古相ニシテとニシテ壞ニシテ爛ニシテするニシテ也ニシテりニシテ又ニシテまニシテろニシテふニシテ信ニシテせニシテるニシテ

弥陀の本願と信するのこ小わすす釋尊の
取説と信するかか釋尊の取説と信するい
六方恒沙の諸佛の取説と言する也一切の
諸佛と信する一切の法と信するいいかか
一切の法と信する一切の菩薩と信するい
小わすここのの信いいくくしてして廣大の信心あり
善導和尚のいいくく為為断凡凡支支疑疑見執皆舒
古相覆覆三三千千共共證證七七日日稱稱名名号号又又表表釋釋迦迦言
ああららままささををああいいまますすまますすまますす

説真六方如来舒舒方方證證專專稱稱名名号号至至西
方到彼花開闡闡妙妙法法十十地地願願行行自自然然彰彰心心之之念
佛莫生疑疑六六方方如如来来證證不不虛虛三三業業專專心心无无雜
乱百寶蓮花應應拈拈現現文
御誓言の書 卷二

りららううーーらら朝朝よりよりららくくのの智智者者ををららいい
沙汰ーーららままらら観観念念のの念念ををららわわせせとと又又學
問ととてて会会のの心心ををままささすすててりりすす会会佛佛を

わしきや 往生極樂のふらふ南無所詠陀佛と
中三きくさういさく 往生するれくおひらそ
中すかふ別の子細いさすきくー三心
四修むじとすす事いひふふ交立して
南無所詠陀佛と 往生するれくおひらそ
らふらりいさり二ありふあてん事と
あせふ三尊のふらふさみよとて平願と
さひー念佛と信せじふかまひ一代の所の

アとらりく學すくそ一文不知の愚鈍の身よ
るく入道の元智のそとさふらり
そく智者のふらふいそとてさく一白
念佛と

山道は以自筆の書り中勢觀聖人小

さくしんせき

往生大要抄 第三

沙門源空

海河浄土宗の二門とて釋迦一代の

二の中よりなり。三の法ハ釋尊入滅の時涅槃經より記しりそののり。一偈とりりて迦葉尊者に付屬し。法なり。天台宗の煩悩即菩提生死即涅槃の觀と觀し心くりてよかりとるゆ也。八歳の龍女南方无垢世界よりて。さらさら小正覺となり。これ證りて花嚴宗小初發心時便成正覺とて又即身成佛とるゆなり。此の宗

とふ部身頃證のじ補とのそ佛業とるるなり。つと小菩薩業とい。歴劫修行成佛の教りて三論法相の二宗よりゆらゆらなり。すつら三論宗は八不中道乃元相の觀小住して。心よ空寂證願とる。身よ六波羅密と行して三僧祇小菩薩の行と修してのり。を小なり。す也。法相宗よ五重唯識の觀よ住して。空を四空と

六度と行して三祇劫とてなりけり
かろこすすかろくく喜薩業とてなり
小縁覺業とて飛花落葉とみてなり
諸法の无常とてなりわつた十二因縁と観
てくは此の四生とて此の百劫とてなりと
身が中つる小聲聞業とてなり不淨教
鬼と観たりたりたり四諦の觀とてなり
此の三生とて六十劫と四向三果のなり

とて大羅漢の極位とてなり也この二乘の道
戒實俱舍の二乘といふゆゑ也又聲聞
よつて戒行とてなり一此比丘の二百五十形
と受持一此比丘の五百戒と受持すなり
五篇七聚の戒とてなり也沙鉢とてなり
戒或沙摩尼の六法優婆塞優婆夷の戒
ふも也律宗のなりふなりすなり也
小乘とてなり二乘の聖道なり

月蔵經といふそれのく行まゝとあるをいふ
をりふふりつふおもす

浄土門の註の安樂世果といふと

ていふたてかの極樂浄土といふはたのちわ

てく佛道を行つてもさうさういふ浄土

いふその願行といふ往生といふは

けりといふがふいじつて申すて行

者の善惡といふなりそのちいを信志

信せらるふふ五逆十惡といふはとらと

と一合十合の往生するはすふりらと

アせらるゆゆ小道縛かて浄土の一門のちわ

て通入すといふみらりての釋一はて通

てといふといふ小川といふとくといふと

小三川のちわといふといふといふ通といふと

といふといふ通といふといふ五逆の罪人をわ

てといふ往生の扱といふといふといふや餘の輕罪

よかふらんや善人なるは(1)聖(2)往生の
る(3)い(4)ま(5)の(6)ふ(7)ら(8)り(9)ら(10)の(11)ほ(12)し(13)る(14)也(15)は(16)い(17)ふ
と(18)通(19)す(20)と(21)ふ(22)也(23)と(24)通(25)す(26)と(27)未(28)法(29)百(30)壽
なり(31)法(32)滅(33)百(34)歳(35)と(36)て(37)此(38)教(39)を(40)信(41)ず(42)る(43)は(44)何(45)れ(46)ん
と(47)て(48)念(49)す(50)る(51)れ(52)往(53)生(54)す(55)と(56)り(57)ん(58)や(59)未
法(60)の(61)ら(62)と(63)ふ(64)らん(65)や(66)正(67)法(68)像(69)法(70)と(71)や(72)也(73)
心(74)以(75)て(76)往(77)生(78)の(79)時(80)より(81)て(82)世(83)ほ(84)し(85)る(86)也(87)は
と(88)通(89)す(90)と(91)ふ(92)ら(93)り(94)ら(95)る(96)也(97)は(98)何(99)れ(100)ん(101)や(102)

と(1)も(2)ま(3)じ(4)し(5)ら(6)り(7)し(8)ら(9)の(10)難(11)證(12)の(13)聖(14)道(15)を
て(16)易(17)往(18)の(19)淨(20)土(21)と(22)稱(23)ふ(24)と(25)也(26)又(27)之(28)の(29)聖(30)道(31)淨(32)土
と(33)難(34)行(35)道(36)易(37)行(38)道(39)と(40)ら(41)り(42)を(43)ら(44)り(45)と(46)也(47)と(48)也(49)
と(50)難(51)行(52)道(53)易(54)行(55)道(56)と(57)ら(58)り(59)と(60)み(61)ら(62)し(63)と(64)ら(65)ら
る(66)也(67)と(68)易(69)行(70)道(71)と(72)海(73)路(74)と(75)ゆ(76)ゆ(77)よ
り(78)ゆ(79)ゆ(80)ゆ(81)ゆ(82)ゆ(83)ゆ(84)ゆ(85)ゆ(86)ゆ(87)ゆ(88)ゆ(89)ゆ(90)ゆ(91)ゆ(92)ゆ(93)ゆ(94)ゆ(95)ゆ(96)ゆ(97)ゆ(98)ゆ(99)ゆ(100)
と(101)ゆ(102)ゆ(103)ゆ(104)ゆ(105)ゆ(106)ゆ(107)ゆ(108)ゆ(109)ゆ(110)ゆ(111)ゆ(112)ゆ(113)ゆ(114)ゆ(115)ゆ(116)ゆ(117)ゆ(118)ゆ(119)ゆ(120)
と(121)ゆ(122)ゆ(123)ゆ(124)ゆ(125)ゆ(126)ゆ(127)ゆ(128)ゆ(129)ゆ(130)ゆ(131)ゆ(132)ゆ(133)ゆ(134)ゆ(135)ゆ(136)ゆ(137)ゆ(138)ゆ(139)ゆ(140)
と(141)ゆ(142)ゆ(143)ゆ(144)ゆ(145)ゆ(146)ゆ(147)ゆ(148)ゆ(149)ゆ(150)ゆ(151)ゆ(152)ゆ(153)ゆ(154)ゆ(155)ゆ(156)ゆ(157)ゆ(158)ゆ(159)ゆ(160)
と(161)ゆ(162)ゆ(163)ゆ(164)ゆ(165)ゆ(166)ゆ(167)ゆ(168)ゆ(169)ゆ(170)ゆ(171)ゆ(172)ゆ(173)ゆ(174)ゆ(175)ゆ(176)ゆ(177)ゆ(178)ゆ(179)ゆ(180)
と(181)ゆ(182)ゆ(183)ゆ(184)ゆ(185)ゆ(186)ゆ(187)ゆ(188)ゆ(189)ゆ(190)ゆ(191)ゆ(192)ゆ(193)ゆ(194)ゆ(195)ゆ(196)ゆ(197)ゆ(198)ゆ(199)ゆ(200)

三門の末に法華の智慧の末に一門

行法の末に法華の智慧の末に一門

三門の末に法華の智慧の末に一門

法華の智慧の末に一門

法華の智慧の末に一門

法華の智慧の末に一門

法華の智慧の末に一門

法華の智慧の末に一門

衆生の往生の行のさうじやう

本願の場は三門の大旨略してくわい

聖道の二門とて法華の二門とてん

法華の二門とて法華の二門とてん

法華の二門とて法華の二門とてん

法華の二門とて法華の二門とてん

法華の二門とて法華の二門とてん

法華の二門とて法華の二門とてん

法華の二門とて法華の二門とてん

十一

二

法華の智慧の末に一門

讀の席より三心を釋し經より至誠心
の往生禮讀の文とすはとて一に至
誠心より身業より礼をせんと
口業より禮を讀莫稱揚せしよと意業に
礼をせんと專念觀察せんよと三業をた
すはとてす真實とらわはるは
至誠心より經より觀經の疏の文
とて一に至誠心とて至とて真あり誠

とて實あり一切衆生の身口意業の最後
解行からす真實心のより小すす
わはるはとて小の賢善精進の相と現
てはるはとて虚相とすはとて善の三業と
の心を中からすす真實心のより小す
内外明闇をえはるは真實とらわは
之より二川の釋といはるは小料簡
すはとて至誠心とて真實の心ありその真實

内外相應の心なりハコ小なるまじふ意イロ

小なるまじふ事コトみまミ人ヒトをヲかクらウ事コトがク海ノ

とわリとモ也ナリとモ久シほシ小ナるニ至ス誠心

をシ熾感心トしてテ勇猛強感の心をシてモ

至ス誠心トス釋ノ心ハまま也文字ニ

かクらウ心色かクらウとモの心をシれバとモえル

猛利の心ハテ至ス誠心とモしテ言ハらレ

らズとモ至ス誠心の心の熾感心とモしテ

わキまシ真實の心至ス誠心とモ地ノ熾感とモしテ
熾感とモぬハかクらウとモわラせル也也とモしテいハすテ
九品の差別トしテいハらレとモいハすテ也也とモいハすテ善道の心
觀經の疏ハ九品ノ文ト釋ト也也とモいハすテ一品品ノ
いハすテ并立三心以テ為ス正因とモいハすテこノ三心ハ
九品ノ道トシてモ釋トしテ後ヲ以テ惠心とモいハすテ也也
いハすテ禪師ノ釋ノ心ハ理九品ノ道トシてモ
いハすテとモいハすテ此ノ三心ハ中カラ至ス誠心

松子守ハ至誠心シニシテをくわくク往生ウシヤウすスをセ

とんてトみりミ小牙コウとトわすワ人ニ

とトふフ不便ヒンゆユはハなりナリ

うウなりナリ徳トクのノ心シンのノさサんンさサんン事ジ也ヤ

善導ゼンダウれレ十徳ジュトクの中ノよりヨリありアリ至誠シニシテ念佛ニホフの徳トク也ヤ

つツすス念ニ念ニ念佛ニホフしてシテらラるルはハなりナリ

うウまマやヤ乃ノ至シ寒サム冷シ也ヤ又マタわワかカりリすス

二相ニソウ相ソウ怙コウとトりリ至誠シニシテとトわワるルすスうウんンとト阿ア

ふるまフルマいイまマくクとトまマをヲいイはハけケしシをヲれレとト

一イチニニ定ヂヤウかカくクのノ至誠心シニシテとトんンてテらラるル

たタらラむムとト至誠心シニシテをヲうウとトんン善導ゼンダウのノ

あアらラむム至誠心シニシテ至極シニシテとト勇猛ユウメイうウんン人ニなりナリ

往生ウシヤウとトんンてテらラるルはハ此コノのノ魁弱クワイニヤクのノ心シン也ヤ

てテハハいイつツ往生ウシヤウとトんンてテらラるルはハ臆オウせセまマぬヌ也ヤとトんンてテらラるル

別ベツてテ善導ゼンダウ一イチ人ニのノ徳トクとトんンてテらラるルはハ阿婆アハ

とトんンてテらラるルはハ一切衆生イツシュウジヤウのノ往生ウシヤウとトんンてテらラるルはハ阿婆アハ

いんちうふくとうん中も飛詮はくつてん
まの元丈とのく分りて族弱真實の心を
たすを至誠心とてうもろそと善導此釋
あつてんは又いせやうふんは
い賢善精進の相と現しうらふ虚悩と併
そくすうんはうらふふんはあつてん
けら此相と現しうらふ徳とのみけりて
うらふ善人の相と現しうらふ懈怠せ
けたい

あふハ精進の相と現すと虚悩とあつて
外相の善悪とてうらふと世間の言譽と
うらふとけらハ穢土といふ浄土とを
愚とてうらふ善とを怪とてゆるり佛
の意ハかなん中とけらハ真實の中と
真實ハ虚悩と對するも也真と悩と對
し虚と實と對するゆかりこの真實虚悩
はけらハ分別するふ四句の差別と
あつてん

し先ず此とて事也其るふは心
程を記しし人にして其の心
かろふ心とていふも
心くす所くす所
執しつする心とていふも
志まっ志まっ志まっ志まっ志まっ志まっ
事とていふも
よれしとていふも

見りし事かたあがゆ事とわら也
しこの世を執する人の心
くす所くす所
その心とていふも
志まっ志まっ志まっ志まっ志まっ
事とていふも
よれしとていふも

物も心もすらすらとすめりすめり
ふもををすらすらとすめりすめり
おもえとの心もすらすらとすめり
ほろろとすめりすめりすめり
もとの心もすらすらとすめり
場の莊嚴もすらすらとすめり
もとの心もすらすらとすめり
おもえとの心もすらすらとすめり
ほろろとすめりすめりすめり
もとの心もすらすらとすめり
場の莊嚴もすらすらとすめり
もとの心もすらすらとすめり
おもえとの心もすらすらとすめり

おもえとの心もすらすらとすめり
ほろろとすめりすめりすめり
もとの心もすらすらとすめり
場の莊嚴もすらすらとすめり
もとの心もすらすらとすめり
おもえとの心もすらすらとすめり
ほろろとすめりすめりすめり
もとの心もすらすらとすめり
場の莊嚴もすらすらとすめり
もとの心もすらすらとすめり
おもえとの心もすらすらとすめり
ほろろとすめりすめりすめり
もとの心もすらすらとすめり
場の莊嚴もすらすらとすめり
もとの心もすらすらとすめり
おもえとの心もすらすらとすめり

半はつるせえこそいりや進ず道は
進ずるよゆせてうまハ放逸そらり
此事そらうせられ難し何れおれおら
誹嫌戒のまらり小いさうふをいじ
こいさうさうそわさう事と目と
の執さう海軍のさうさうみと徒生のさ
とさうさうさういさうさう事のみが
くら行くと誹嫌戒さういさうさう虚假

よさう事とわりぬー真寶とついで
あまり放逸さう事とわりぬーこれと
他さうさうさうさうさうさうさう
心らうとせ又この真寶小いそ自利の真寶
利他の真寶何り又三界六道の自他の依正と
いとさうさうさうさうさう所詮佛
の依正三報と礼拝讃嘆念せんさうさう
難穢土彼水淨土の三業小いさうさう真寶

かろくしひの疏の文よほききせその文をきく
まろくまろくまろくすにけくまろくまろくまろく
わろくまろくまろくまろくまろく
ニよ深心といひまろく礼讃の文よまろくまろく二者深心
すまろくまろく真寶の信心あり自身は煩悩の
具足まろく佛あり善根薄少なり三果り
流轉まろく火宅とてまろく信知とてまろく
の本弘誓願の名字を福する事三まろく十聲

一聲まろくまろくまろくまろくまろく往生する事まろくと
信知とてまろく至一念まろくまろくまろくまろくまろく
かろくまろくまろく深心まろくまろくまろくまろくまろく
疏の文よまろくまろく深心まろくまろくまろくまろく
信の心かろく又二種あり一はまろくまろくまろくまろく
身は親まろくまろく衆恩生死の元まろくまろくまろく
二はまろく常没流轉とて出離の縁わろくまろく
まろく信也まろくまろくまろくまろくまろくまろくまろく
まろくまろくまろくまろくまろくまろくまろくまろく

の四十八願よんじゅうはちのくわんとて衆生しゆじやうを攝受しやくじゆし給ふ事ことなり

まゝいふべしんまゝいふべしんらりまゝらりまゝかゝ願くわんに余あま一ひと

てまゝまゝくく往生じやうじやうする事こととて信しん又また改定かいぢやう志し

てゆゆくく釋迦しやくぢや佛ぶつの觀經くわんぎやうの三福さんぷく九品くじゆひん定散ぢやうさん二

善ぜんととままままかかのの依正いぢやう二報にばうと證讀じやうだくを

人ひとををまままま彼慕かほせせりり給ふ事こととて位ゐ一ひと又また改定かいぢやう

てゆゆくく鉢陀はつた經ぎやうなるなるまま十方じゆうほう恒沙こんさの諸佛しよぶつの

一切いっけつのの凡ぼん又また改定かいぢやうしてしてまままま事こととてとて證勸じやうくわん志し

せんふ ちちちやう

まゝいふべしん

給ふたまはまま稱なほりりてて一切いっけつの行者ぎやうじや心しんよよまままま佛ぶつ

語ごと信しんと身命しんめいととまままま改定かいぢやうととまままま

行志ぎやうしととまままま改定かいぢやうととまままま改定かいぢやうととまままま

まままま改定かいぢやうととまままま改定かいぢやうととまままま

一ひとののまま改定かいぢやうととまままま改定かいぢやうととまままま

まま改定かいぢやうととまままま改定かいぢやうととまままま

まま改定かいぢやうととまままま改定かいぢやうととまままま

まま改定かいぢやうととまままま改定かいぢやうととまままま

まま改定かいぢやうととまままま改定かいぢやうととまままま

りりと信をまじひてさうさう海に身を
おくく往生を祈る人難行とて本願
とよめゆるしむるさうさうは海をさう
の本願の念佛と候へるさうさうより
貪欲瞋恚の煩惱とてさうさうは
十悪破戒等の罪業とてさうさうは
己自身と快弱とてさうさうは
さうさうはさうさうは弥陀の本願と十聲一歩
さうさうは

小つらうゆき往生して上輩にさうさうは
さうさうは妄念とてさうさうは
ぬ人の甚深のさうさうは
てりさうさうは念佛とてさうさうは
えせさうさうは一念十聲とてさうさうは
さうさうは
尚未來の衆生のこれとてさうさうは
さうさうは二種の信心とわけてさうさうは

かゝる煩悩と断せと衆愚とてつくり
凡そ又有りてゆへ旅地の本願と信を念
佛す此の千聲一聲よりして定し
往生するは此の釋と信也かく不釋志
信は所傳ふるは往生の不定しを
し阿やうく此のゆへに此の釋の
系心よきみく此のゆへに此の
義とていぬ人小く此のゆへに此の本願

とていぬるは此の心より信す此の往生と
かりし中阿は此のゆへに本願とて
子そゆへ也るし中阿は此のゆへに
たつたは此の本願よきなり此のゆへに
本願よきなり此のゆへに信す此の
まじりてんよきなり此の煩悩と断せん
まじりてんよきなり此の煩悩と断せん
まじりてんよきなり此の煩悩と断せん
まじりてんよきなり此の煩悩と断せん

又煩惱と断して往生はす如く之を中々小なり
かゝる又の往生はす小なり此れは又此の願を
断絶の本願力と云ふも煩惱罪惡の元夫と
いふことと云ふは上つて云ふは然るに何れを云
と申す小なりと云ふは其の云らるる
いふことと云ふは上つて云ふは然るに何れを云
うはす小なりと云ふは其の云らるる
いふことと云ふは上つて云ふは然るに何れを云
いふことと云ふは上つて云ふは然るに何れを云

これわざとて心の善惡をさして其を
願ふが如くいふことと云ふは其の云らるる
佛智なりと云ふは其の云らるる
觀經の疏の一のまはら願と釋するに一切
善惡の元夫と云ふは其の云らるる
の大願業力に業して増上縁と云ふは其の云らるる
といふことと云ふは其の云らるる
三賢十聲と云ふは其の云らるる

小わいじんやれし信外ニケの軽毛キョウモウなりわて
有コト趣ニとくしわさそニケの釋ニケ一信ニひき進ニ吾ニ
導ニふし十信ニいふあはさるぬちと併ニう
てうわをふんせうふんせうとそとそあひ増
らまされいゆてまわくさるるにせ
その本願ニハかひく事ハゆちかひひり
ふん事ニせふん善ニ徳ニとそとんと衆ニの
軽重ニとそけいさふんは往生ニせしかりて
まらちち

南無所稱陀佛とせうはく小川の
決定ケル往生ニのかりとらと一ケルは決定ニ
とやてすふら往生ニの業ニいさう也ふん
えい進ニいやく也往生ニの不定ニはかりやく
不定ニ也一定ニとかりやくそ一定ニする事也
所詮ニの深言ニといふかめとその本願ニはら
衆人ニとそすそとそ名号ニとそとそ業ニ
そとそ決定ニとそ往生ニすゆゆにのそとそ

わきまをきくはきく導の貧頭煩悩とまきまをゆ
志をいしり先文念の相續していのり
かきんと期せしむるは又日取作の五万
六百乃至十萬のしむるはすまのゆいし
らむは天懲本願の一切と攝するはと惠五
逆とせりしむるは福名念佛の餘行すまのゆ
すまの念十念しむるは運らじしと信せ
らむすまのしむるはわきまの事新く

心せしむるはしむるは事ある也しむるは信
すまの念すまのしむるは邪見とすまの邪見
はしむるはしむるは信のしむるは信
かきまのしむるはしむるは命別はしむる
はしむるはしむるはしむるは下すまのゆ
かきまのしむるはしむるはしむるは疏
文をきくはしむるの信はしむるは二川の心あり
すまのしむるはしむるはしむるは信經の

てよく信すといひしと釋し給ふやと
心へらる也。小川の信すといひ
小祇陀の本願と信し。二の釋迦の所説
と信し。三の十方恒沙の護勸と信す也。
經より信すといひ。元量壽經と信
し。觀經と信し。三の所祇陀經と信す也。
す。らりや。決定とぬ。所祇陀佛の
四八願と信し。文の祇陀と信し。又元量壽經
む。らりや。決定とぬ。所祇陀佛の

と信す也。は。又決定とぬ。釋迦佛
の觀經と信し。文の釋迦と信し。觀經と信す
り。中。は。小。又。決定とぬ。祇陀經の中
の。文。十。方。諸。佛。と。信。し。又。所。祇。陀。經。と。信
す。也。又。小。の。文。又。は。の。す。ら。り。給。ふ。を
は。す。と。し。小。の。雜。修。雜。行。の。中。の。行。也
の。給。ふ。事。と。行。せ。と。し。小。の。專。修。正。行。也
の。給。ふ。所。ら。り。給。ふ。事。と。信。し。小。の。異。學

信シの由ヨ別ワ解ケ別ワ行キ之ノ法ホウをシてシるノ法ホウのシるノ法ホウ

此コのシるノ法ホウはシるノ法ホウのシるノ法ホウのシるノ法ホウ

文モンのシるノ法ホウはシるノ法ホウのシるノ法ホウのシるノ法ホウ

信シとシるノ法ホウはシるノ法ホウのシるノ法ホウのシるノ法ホウ

信シとシるノ法ホウはシるノ法ホウのシるノ法ホウのシるノ法ホウ

信シとシるノ法ホウはシるノ法ホウのシるノ法ホウのシるノ法ホウ

信シとシるノ法ホウはシるノ法ホウのシるノ法ホウのシるノ法ホウ

信シとシるノ法ホウはシるノ法ホウのシるノ法ホウのシるノ法ホウ

略志リョクシ

此コのシるノ法ホウはシるノ法ホウのシるノ法ホウのシるノ法ホウ

信シとシるノ法ホウはシるノ法ホウのシるノ法ホウのシるノ法ホウ

信シとシるノ法ホウはシるノ法ホウのシるノ法ホウのシるノ法ホウ

信シとシるノ法ホウはシるノ法ホウのシるノ法ホウのシるノ法ホウ

信シとシるノ法ホウはシるノ法ホウのシるノ法ホウのシるノ法ホウ

信シとシるノ法ホウはシるノ法ホウのシるノ法ホウのシるノ法ホウ

信シとシるノ法ホウはシるノ法ホウのシるノ法ホウのシるノ法ホウ

信シとシるノ法ホウはシるノ法ホウのシるノ法ホウのシるノ法ホウ

信シとシるノ法ホウ

觀經カンキョウ

とて後事時別とて別と對校
色別利益も別なるをの説教ハ機と志
をいふは三つひて不同なるの道と通
てく人天菩薩の解行とて別と
往生淨土の解行とて別と
の五濁極増乃一切の凡又決定して往生す
此事とてこれ終ア一は一心とこの佛
教よりて決定して奉行せよとていひんり

百千万億じも進下とてとてとての往生の
信心と增長一成就せんといふとて又
行者は難破の人といひてこれて之を
りていふはこれすんちりてあふりて小
決定の信の相とていひてり 然る地
前菩薩羅漢等支佛よりりて化佛報佛
もてたてわをばいひ化佛報佛十音とみ
りてらてとのくひりてかやうとて

よく十方よりあついで一切の凡夫念佛して一
定往生すべし事ハ信すべし
との語もいよいよいふ事ハ諸佛の所説も
と念之疑退の心を去りてかの如くして
何事とえうしむるも一にふとて
の心よきあり二佛の切佛也大悲等同一
よくすありきり差別あり同身の大悲の心よ
一佛の所説いふべしなり一切佛の化有りて

りて川流如來補我名号下至十聲若不生
者不取正覺と願してなり願成就してて
佛よりかへ給つて又釋迦如來の丑濁惡世に
思衆生思見思煩悩思邪元信よりなり時
弥陀の名号をいふ衆生を勸勵す補念
せむかありて往生すべし事とていふは又
十方の諸佛の衆生の釋迦一佛の所説を信せ
らむ事とていふすべしなり一心同時

そのく古相を^{セツリ}してわまのくふ千世傳ふ。

おかし^シ誠實の^シよま^シに^シうん^シら^シ衆生

の^シ釋迦の^シ所^シ信^シ所^シ讀^シ所^シ證^シと^シ信^シは^シ二^シ切^シ凡^シ又

衆福の^シ多少^シ時^シ節^シの^シ久^シ近^シを^シま^シた^シく^シよ^シま^シ

百年と^シい^シく^シ下^シと^シい^シく^シ七日^シ十^シ聲^シ一^シ聲^シぶ^シら^シせ^シ

心^シとい^シく^シま^シく^シり^シく^シ祇^シ池^シの^シ右^シ号^シを^シ念^シて^シ

い^シま^シく^シ往^シ生^シす^シ事^シと^シい^シく^シま^シく^シ信^シと

一^シか^シま^シす^シこ^シう^シ事^シあ^シま^シく^シ證^シ誠^シ極^シり

かま^シく^シ今^シの^シ信^シと^シい^シく^シま^シく^シ信^シと

さ^シら^シ二^シ切^シ諸^シ佛^シの^シ一^シ佛^シと^シの^シう^シく^シ同^シ心^シを^シわ^シま^シす

願^シと^シい^シく^シい^シか^シえ^シの^シ願^シと^シい^シく^シい^シか^シえ^シの^シ説^シ

證^シと^シい^シく^シ二^シ切^シの^シ凡^シ又^シ念^シ佛^シと^シい^シく^シ使^シ定^シ往^シ生^シす^シこ^シ

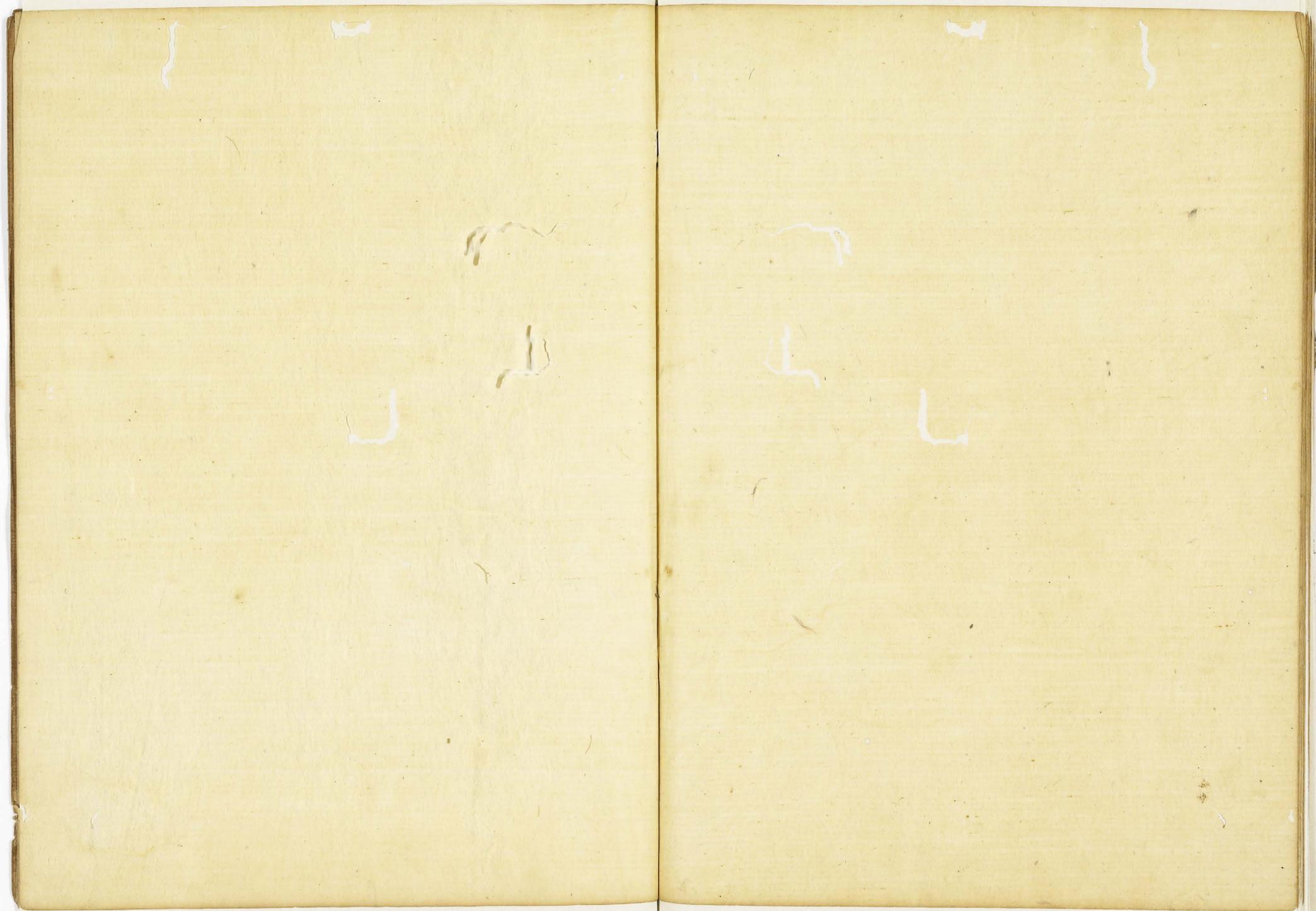
い^シま^シく^シ往^シ生^シす^シこ^シう^シ事^シあ^シま^シく^シ信^シと

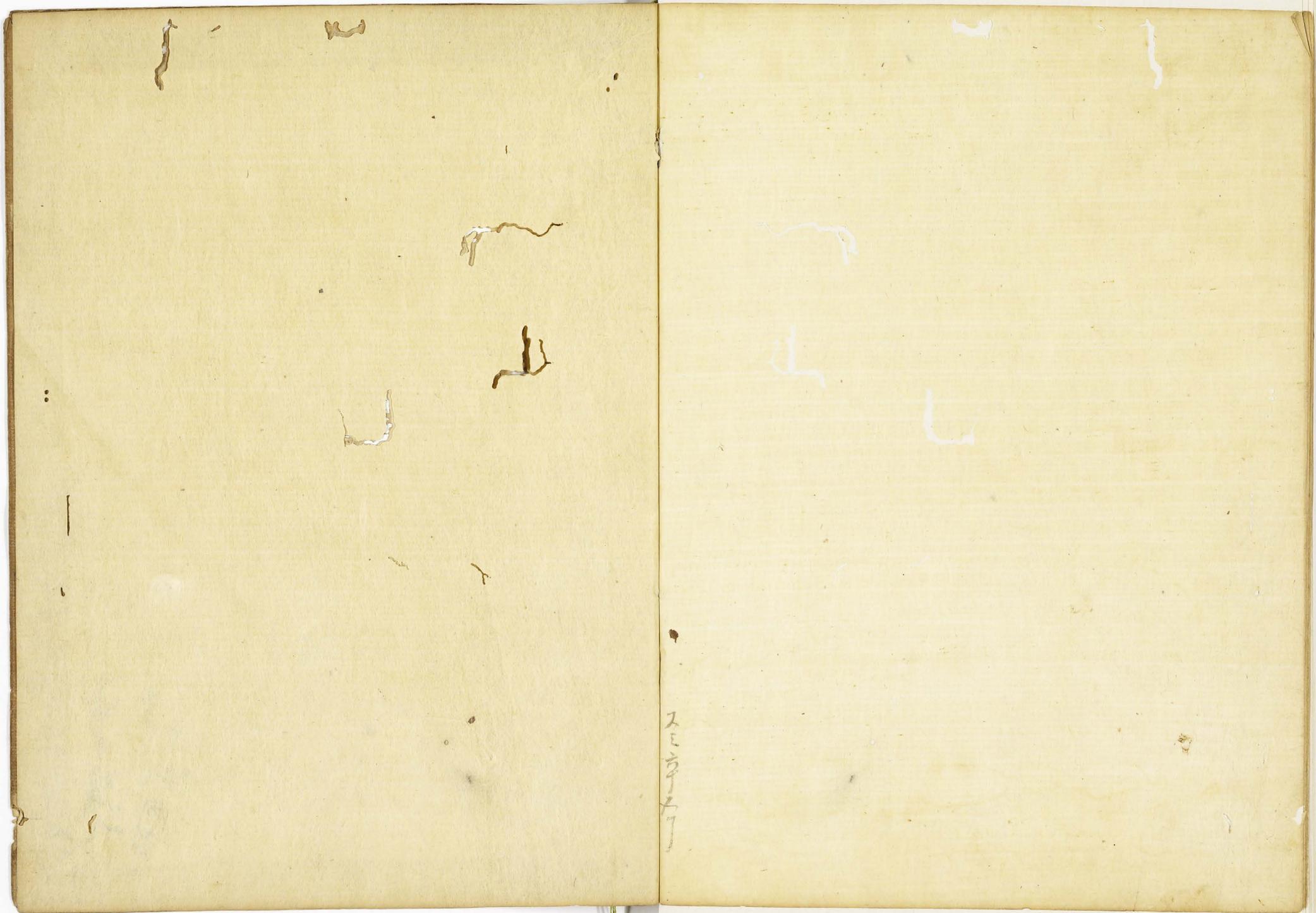
い^シま^シく^シ往^シ生^シす^シこ^シう^シ事^シあ^シま^シく^シ信^シと

い^シま^シく^シ往^シ生^シす^シこ^シう^シ事^シあ^シま^シく^シ信^シと

い^シま^シく^シ往^シ生^シす^シこ^シう^シ事^シあ^シま^シく^シ信^シと

い^シま^シく^シ往^シ生^シす^シこ^シう^シ事^シあ^シま^シく^シ信^シと





スミチヤク

